

# 新たな学舎

## 本庄東中學校の新校舎完成

本庄東中學校の既存校舎は、昭和38年の建設から約50年が経過し、施設の老朽化が著しいことから全面的な建替工事を行いました。このたび、校舎棟と体育館が完成し、新学期から新校舎での生活がスタートします。

### 建替事業の流れ

平成22年度

建替検討委員会の発足からスタート。基本コンセプトや建物の配置計画を決定。

基本コンセプトに、「安全・安心」と「シンプルで機能的」

の2つの方向性を定め、配置計画は現敷地内の既存グラウンドに新校舎を建設する計画案が採用されました。

平成23年度 基本設計

平成24年度 実施設計

平成25年度 建設工事開始

平成27年2月

校舎棟・体育館完成

今後の予定

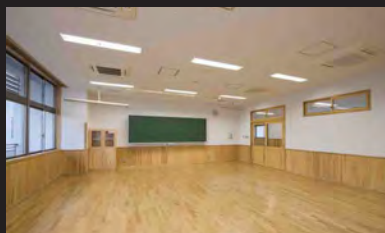
今年度旧校舎の解体工事、来年度にかけて、グラウンド・外構・プール棟の建設工事を行い、平成28年度末には全ての工事が完成となる予定です。



### 新校舎の特色

#### 「内装の木質化」

教室や廊下の床、腰壁や造作家具などに県産木材を使用しています。特に、教室と廊下の床は、水気に強い栗材を使用したフローリングになっていて、学校が取り組んでいく「心を磨く無言膝つき清掃」による水拭きにも対応しています。



▲フローリングの普通教室

#### 「防災機能の強化」

体育館には、太陽光発電による停電時も利用できる照明器具や非常用電源が確保されています。また、非常食などを備蓄しておくための防災備蓄庫が設置してあります。

中庭には、非常時の炊き出しに使用できるかまど型ベンチを設置しました。

また、プール完成時には、プールの水を利用したマンホール型トイレの設置を予定しています。

#### 「環境への配慮」

校舎には、環境にやさしい建材を使用し、太陽光発電装置や省エネ型照明器具を設置しています。空調設備は、維持管理費用も考慮しガスヒートポンプ式を採用しました。

また、体育館にも、省エネ型照明器具を設置するとともに、床下の安定した温度の空気を循環させる仕組みや、自然通風を促進させる換気窓を用いました。さらに、風力と太陽光発電によるハイブリット型の外灯も2基設置しています。



▲校舎屋上の太陽光発電装置

#### 「地域に開かれた学校」

体育館だけでなく、多目的室（視聴覚室）やメディアセンター（図書室）なども学校開放の対象とし、専用の玄関や管理用の間仕切りを設けることで、教室まで訪れやすくなっています。

### 定礎式

1月30日、

吉田市長の題字による定礎が来客用玄関に設けられ、定礎石板の奥に、本庄東中學校全生徒が



「50年後の自分へ」という自分に宛てた手紙を記念として納めました。未来へのさまざまな夢を持つ生徒たちは、将来の自分にどのような手紙を出したのでしょうか。

### 新たな校舎 新たな自分

クーラーが入り、環境の整った新校舎で「本庄高校に入れるように、もっと勉強を頑張りたい」と笑顔で語る生徒会長の高橋隼さん。「大変だけど、自分たちにしか味わえない達成感がある」と新校舎第1号の生徒会長として、生徒会活動への意気込みを感じさせてくれました。

◀高橋 隼 さん  
(本庄東中學校生徒会長)





市周辺の山並の稜線を思わせる曲線的なデザイン

# 「健康づくり推進拠点施設」を 整備します

～基本設計がまとまりました～

現在の本庄市保健センターは、耐震性への不安や老朽化による維持費の増加などの課題を抱えています。こうした状況も踏まえ、市民の健康づくりをさらに推進する拠点として、新たに施設を整備することになりました。平成29年度のオープン（供用開始）を目指しています。

## 建設場所は

中央公民館の跡地です。  
(中央公民館は、はにぼんプラザに機能を移転し、解体されます。)

## 「健康づくり推進拠点施設」とは

- 保健センター機能
  - 休日等の初期救急診療所機能
  - 健診・検査機能
- の3つの機能を持った施設です。



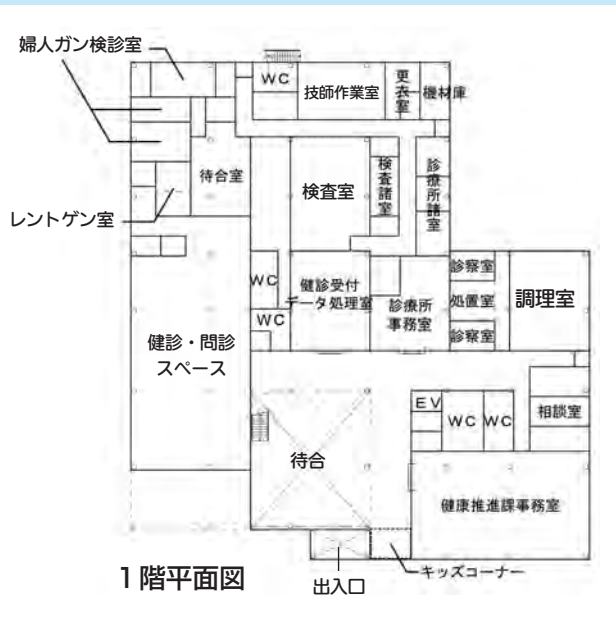
## スケジュール（予定）

基本・実施設計 平成26年6月 ～ 平成27年7月  
 工事 平成28年1月 ～ 平成29年3月

## 計画の概要

構造規模 鉄骨造 2階建  
 延床面積 約2730㎡

- ・1階：健康推進課事務室等エリア、初期救急診療所エリア、健診・検査エリア、共通待合
- ・2階：保健指導室、研修室等



- 間仕切りや腰壁などに木材を活用して、ぬくもり・あたたかみを表現した親しみやすい空間にします。
- 待合スペースを中心に各機能を効率的に配置し、利便性の向上を図ります。
- 親子連れや高齢者など、誰にでも使いやすい施設にします。